

＜平成24年度水戸市学生親善大使＞

菊池 莉緒(中学2年)	鈴木 瑠夏(中学2年)	東 裕子(中学3年)
平野 瑞葉(中学3年)	片岡 宏(高校1年)	黒木 理沙(高校1年)
深谷 奈津子(高校1年)	猪瀬 悠(高校2年)	金 永珠(高校2年)
西野 亮太(高校2年)	団長 森 久美子(緑岡中学校教諭)	



インタビュー

水戸市学生親善大使

一水戸市学生親善大使のアナハイム市への派遣は、1988(昭和63)年に始まり、今年で22回目。今年度の親善大使を含め、これまでに433名がアナハイム市を訪問し、友好交流を行っています。

水戸市学生親善大使に聞く -アナハイムで過ごした10日間とは-

(左から)「ホームステイはもちろん、親善大使としての任務を果たせることも魅力のひとつでした」という西野君、「ホームステイで、現地の人のリアルな生活や習慣を体験してみたかった」という平野さん、「夏休みの中で一番充実していた10日間だった」という金さん



得たものは「自信」

実は、出発前、電子辞書はもちろん持っていき準備はしていたけど、この電子辞書の電池が切れちゃったら自分はどうかちゃうんだろうって思って、かばんに予備の単3電池まで用意していたんです。あの10日間で、ホストファミリーはもちろん、いろいろな人と話す機会があったけど、電子辞書を使ったのは結局1回か2回くらいでした。実際に英語で話してみても感じたのは、電子辞書を使うと、コミュニケーションがどうしても一時的に中断してしまうってこと。それはコミュニケーションや会話の理想的な形ではないので、電池の予備まで持っていたけど、結局、電子辞書は使いませんでした。身振り手振りで無理やりなところもあったけど、辞書に頼らなかったことで会話が一方通行にならずに話をする事ができていたと思います。

英語が好きなので学校ではESS部に所属していますが、帰国子女や英語がうまい人がたくさんいるんです。そういう中で、



ホストファミリーと

自分ってどのくらいの位置にいるんだろうって、勝手にランク付けしている感覚があったんです。だけど、向こうに行ってみて、「世界は広がった」って感じました。それこそアメリカだから人種も多様で、個性も人柄もそれぞれで、やさしく英語で対応してくれる人もいれば、英語でさらっと言われて、聞き取れないこともありました。でも、全体を通して見て、電子辞書を使わずに、ただただ話しても、会話が一方通行にならないコミュニケーションの理想的な形をなんとかとることができていたと思います。最初はお客扱いだったホストファミリーとも徐々に溶け込んでいって、最後は家族同然みたいになれたのも、こうしたコミュニケーションあってのことだったと思ったんです。だから、ランク付けとか意味なくて、「自分は自分」って思えるようになったから、自信がついたのかなって思います。



西野 亮太(高校2年)

感じたことは「親切」

私のホストファミリーは、日本から一人で来た英語もあまり話せない、マナーだってあまりなってない、文化も違う私を全部受け入れてくれました。シアトルに住んでいる息子さんのお嫁さんが日本人なので、彼女に日本風の味付けや、日本食のレシピを聞いておいて、それを作ってくれたこともありました。親にメールを送ろうとしたときに、日本語で送ろうとしたらうまくできないことがあって、パソコン関係の仕事をしているらしい息子さんに電話して聞いてくれましたが、英語だとよくわからないから、その日本人の奥さんに代わって、すごく親切に教えてくれたこともありました。それだけでもありがたかったのに、「またわからないことがあったら、いつでも電話していいよ」って、すごく夜遅かったのに言ってくれて。ホストファミリーだけじゃなくて、例えばスーパーのレジの人も、私がアメリカの使い方に慣れていないから時間がかかってしまったときも待っていてくれたということもありました。



ホストファミリーと

今回のアナハイム訪問は、私にとって初めての海外だったので、最初は不安ばかりでした。でも、行ってみたら、こんなふうにホストファミリーが本当の家族みたいに受け入れてくれたし、言葉がうまく通じなくてもいろいろな場面で優しい心を感じたので、心配とか不安がなくなってきました。アメリカにはいろいろな人種の人やいて、様々な人たちと接しているからなのか、親切っていうか、寛大・寛容っていうか。アメリカはいろんな文化や宗教とかがあって、だからこそ誰に対しても親切に受け入れてくれるのかなと思いました。



平野 瑞葉(中学3年生)

学んだことは「勇気」

よく「チャンスは自分で切り開かなくちゃいけない」とか言いますよね。新しいことを経験できるチャンスってたくさんあるけど、自分に勇気がなくて一歩踏み出せないまま諦めちゃったり、知りたいことがあってホストファミリーに聞いてみたいけど、恥ずかしいし、あとで調べればいかなって尻込みするのは、せっかくあるチャンスも自分で拒否してるってことじゃないかなって、この10日間ですごく思いました。自分次第で、楽しくもなるし、つまらなくもなるし、有意義にもなる。結局、自分次第なんだなって。今回親善大使に応募するのも、学校のイベントもあったので、どうしようかなってすごく迷ったんです。でも、いろいろな



ホストファミリーと

の後押しと、ちょっと勇気を出して応募したからこそ、こんなにいい夏休みになった。だから、ほんの少しの勇気で、その先は結構変わるんだなっていうことがわかりました。ちょっと嫌なことあったけど、自分で全然気にしないで、前に進もうって思えば楽しくなるけど、恥ずかしいし今日はいいやって思ってしまうと、どんどんチャンスはなくなってしまふ。何でもそうなのかなって思いました。だから、これからは、ためらってるんだったら、やってみようかな、前向きにいきたいなって思いました。間違えちゃっても、自分が言ったことが、後から考えてみたら失礼だったかなとか、英語が間違っって聞いているほうはちんぶんかんぶんだっただろうなって、落ち込んだり、後悔することはありません、やらないよりはやってよかったなって思えるようになりました。



金永珠(高校2年生)